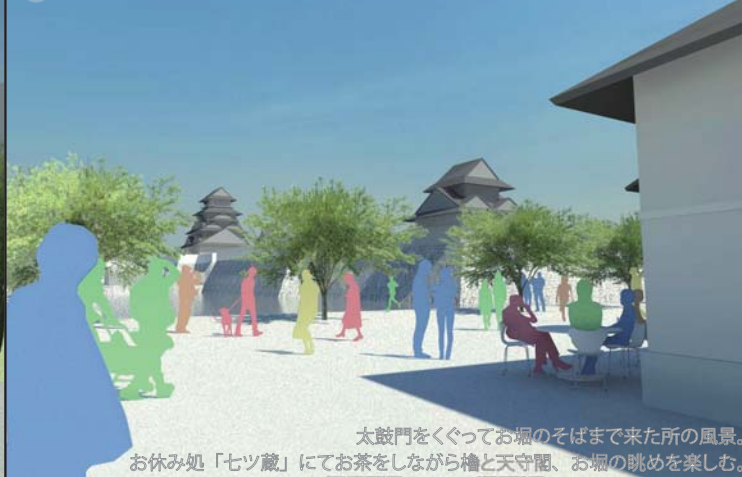


A 太鼓門広場前から空堀公園を臨む



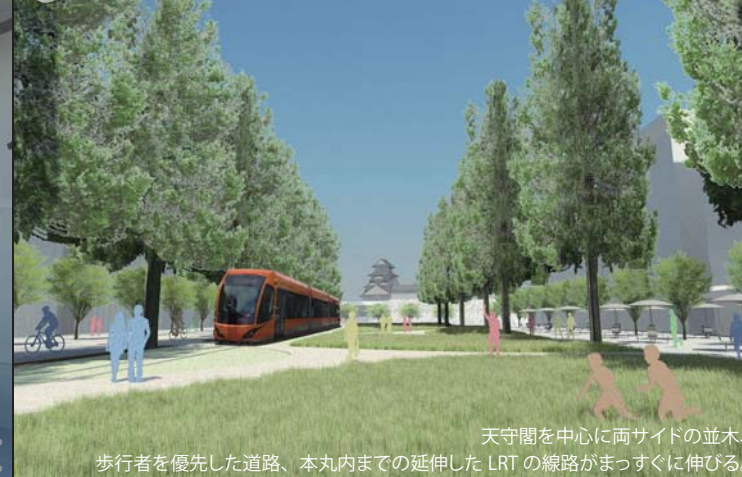
中央公園のデザイン、市庁舎のサンクンガーデンを活かした空堀通り。

B 七ツ蔵より櫓と天守閣、お堀を臨む

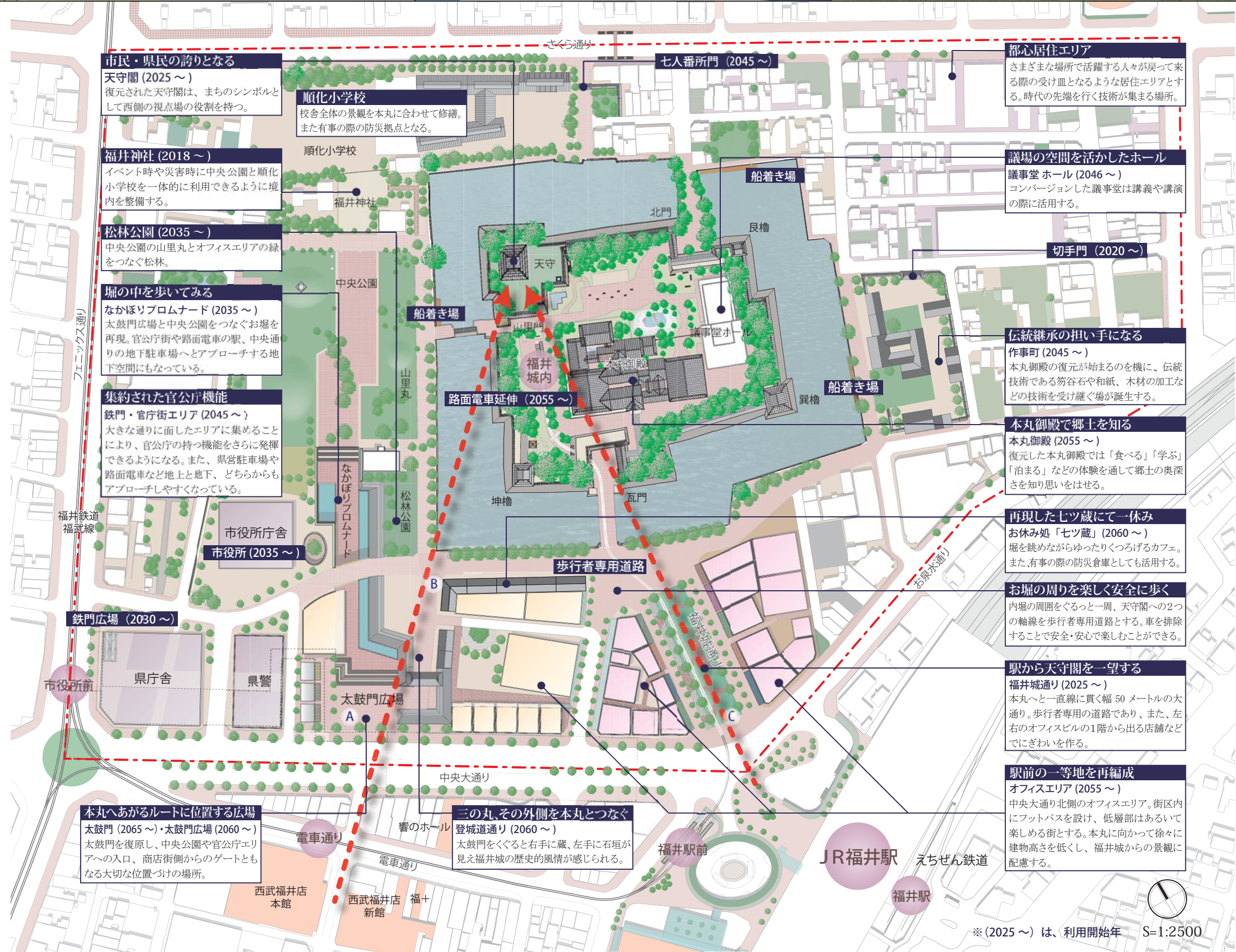


太鼓門をくぐってお堀のそばまで来た所の風景。お休み処「七ツ蔵」にてお茶をしながら櫓と天守閣、お堀の眺めを楽しむ。

C 福井城通りから天守閣を臨む



天守閣を中心に両サイドの並木、歩行者を優先した道路、本丸内までの延伸したLRTの線路がまっすぐに伸びる。



市民・県民の誇りとなる  
天守閣 (2025 ~)  
復元された天守閣は、まちのシンボルとして西側の視点場の役割を持つ。

順化小学校  
校舎全体の景観を本丸に合わせて修繕。また有事の際の防災拠点となる。

福井神社 (2018 ~)  
イベント時や災害時に中央公園と順化小学校を一体的に利用できるように境内を整備する。

松林公園 (2035 ~)  
中央公園の山里丸とオフィスエリアの緑をつなぐ松林。

城の中を歩いてみる  
なかぼりプロムナード (2035 ~)  
太鼓門広場と中央公園をつなぐお堀を再現。官公庁街や路面電車の駅、中央通りの地下駐車場へとアプローチする地下空間にもなっている。

集約された官公庁機能  
鉄門・官庁街エリア (2045 ~)  
大きな通りに面したエリアに集めることにより、官公庁の持つ機能をさらに発揮できるようになる。また、県営駐車場や路面電車など地上と地下、どちらからもアプローチしやすくなっている。

市役所庁舎  
市役所 (2035 ~)

鉄門広場 (2030 ~)

本丸へあがるルートに位置する広場  
太鼓門 (2065 ~)・太鼓門広場 (2060 ~)  
太鼓門を復元し、中央公園や官公庁エリアへの入口、商店街側からのゲートともなる大切な位置づけの場所。

三の丸、その外側を本丸とつなぐ  
登城道通り (2060 ~)  
太鼓門をくぐると右手に蔵、左手に石垣が見え福井城の歴史的風情が感じられる。

七人番所門 (2045 ~)

都心居住エリア  
さまざまな場所で活躍する人々が戻って来る際の受け皿となるような居住エリアとする。時代の先端に行く技術が集まる場所。

議場の空間を活かしたホール  
議事堂 ホール (2046 ~)  
コンバージョンした議事堂は講義や講演の際に活用する。

伝統継承の担い手になる  
作事町 (2045 ~)  
本丸御殿の復元が始まるのを機に、伝統技術である笏石や和紙、木材の加工などの技術を受け継ぐ場が誕生する。

本丸御殿で郷土を知る  
本丸御殿 (2055 ~)  
復元した本丸御殿では「食べる」「学ぶ」「泊まる」などの体験を通して郷土の奥深さを思いをさせる。

再現した七ツ蔵にて一休み  
お休み処「七ツ蔵」 (2060 ~)  
堀を眺めながらゆったりくつろげるカフェ。また、有事の際の防災倉庫としても活用する。

お堀の周りを楽しく安全に歩く  
内堀の周囲をぐるっと一周、天守閣への2つの軸線を歩行者専用道路とする。車を排除することで安全・安心で楽しむことができる。

駅から天守閣を一望する  
福井城通り (2025 ~)  
本丸へと一直線に貫く幅 50メートルの大通り。歩行者専用の道路であり、また、左右のオフィスの1階から出る店舗などでにぎわいを作る。

駅前の一等地を再編成  
オフィスエリア (2055 ~)  
中央大通り北側のオフィスエリア。街区内にフットパスを設け、低層部はあるいて楽しめる街とする。本丸に向かって徐々に建物高さを低くし、福井城からの景観に配慮する。

JR福井駅  
えちぜん鉄道  
福井駅

※ (2025 ~) は、利用開始年 S=1:2500

参加しながら復原していく段階的な利用

市民が活動を楽しむこと・人と人のつながりを生み出すこと・自分たちの街や歴史に関心や誇りをもつこと、様々なアクティビティを通して、本丸が身近に感じられる復原を行っていく。

(2050年の案内図)



天守閣 (眺める)  
視点場としてまちを一望でき、内部では自然素材と技術の融合が体感できる。地場産材が活用され、利用した山林では市民参加型の「森づくり」が行われている。

福井城駅 (巡る)  
本丸を利用する人がアプローチしやすいよう新たに設置された路面電車。郊外と本丸を直接行き来できる。

櫓・堀 (眺める・巡る)  
石垣の天端を回遊できる。堀の建設に合わせて、市民の手で桜を植樹していくことで歴史と緑の回復をつくる。

舞台広場 (もてなす)  
天守が間近に見える本丸のオープンスペースとしてイベントが行われ、観光客や市民が出会いや交流を楽しめる。

遊具広場 (遊ぶ) ※暫定利用  
木のぬくもりが感じられる木製遊具を設置。間伐材が用いられ、「作事町」で作製されている。作る場所から使うまでを体感できる。

議事堂ホール (鑑賞する)  
コンサートや集会、セミナーなどに活用される吹抜け空間を活かした小ホール。

ギャラリー・スタジオ (学ぶ)  
本丸復元までのアーカイブとなる歴史資料館。本丸やまちなかの観光案内拠点。小割された空間は市民の貸しスペースとして利用。

本丸御殿  
1期 (2050年完成済) 2期 (2050年時は暫定利用)  
料亭 (味わう) 大広間、台所は料亭として利用。福井の食文化に触れることができる。

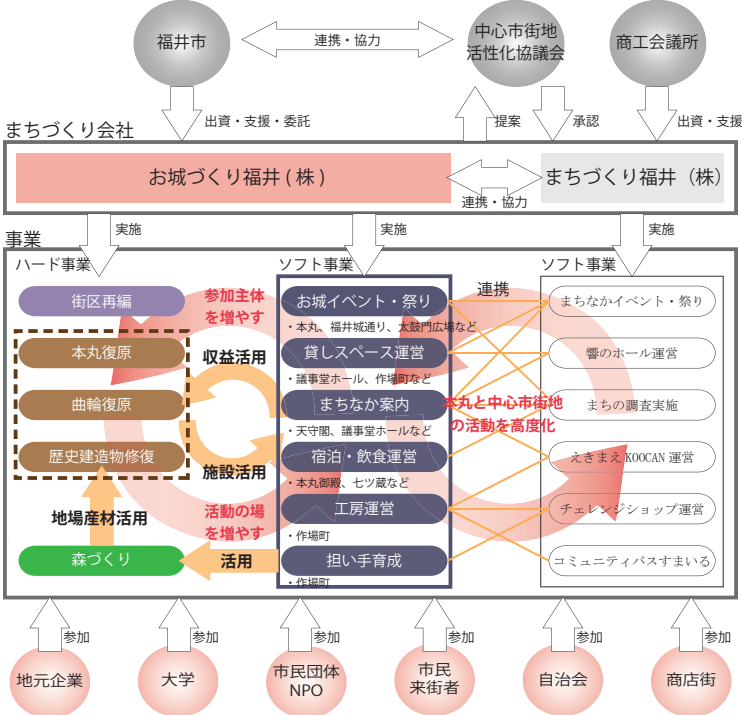
キャンプ場 ※暫定利用 遊具広場 ※暫定利用  
宿泊施設 (泊まる) 奥座敷は宿泊利用できるスペース。建設前のオープンスペース時はテントや仮設ログが設置され本丸に体験宿泊できる。

美術館 (潤う) 土間は歩いてまわれる展示スペース。季節ごとに御殿への訪問とともに楽しむことができる。

※本丸の中心に位置する御殿は少しずつ増築を重ねることで、オープンスペース機能を保ちながら復原する。

「お城」と「人」を育むエリアマネジメント

本丸・お堀まわりを中心に、新たなまちづくり会社「お城づくり福井(株)」を設立し、総合的なマネジメントを行う。自発的な参加を促す様々なソフト事業を展開し、その活動収益を段階的に歴史的遺構の復原に活用していく。



福井市 連携・協力 中心市街地活性化協議会 商工会議所

まちづくり会社 出資・支援・委託 出資・支援

お城づくり福井(株) 連携・協力 まちづくり福井(株)

事業 実施 実施 実施

ハード事業 ソフト事業 ソフト事業

街区再編 参加主体を増やす 街区再編 参加主体を増やす

本丸復原 収益活用 本丸復原 収益活用

曲輪復原 施設活用 曲輪復原 施設活用

歴史建造物修復 活動の場を増やす 歴史建造物修復 活動の場を増やす

地場産材活用 活用 地場産材活用 活用

森づくり 活用 森づくり 活用

参加 参加 参加 参加 参加 参加

地元企業 大学 市民団体 NPO 市民来街者 自治会 商店街